

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年7月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】はん用機械が持ち直しの動きを牽引

○製造業は、主要産業で豪雨による一部被害が見られるも、増収傾向を示すヒアリングが多く聞かれ、また、貿易摩擦が懸念されるも、足元では好調な輸出を維持している。しかし、人手不足の慢性化や、原料価格の高騰や電力費、運搬費等の経費増加分に対する価格転嫁の停滞により、利益創出機会を逸している企業も多い。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、消費の縮小やコスト上昇による収益圧迫に加え、深刻な人手不足や後継者問題が顕在化しており、全体的に厳しい状況が継続している。

【設備投資】一部には投資姿勢に慎重な企業も見られる

○設備投資は、ヒアリングにおける投資目的としては、設備の補修・更新や合理化・省力化がメイン。一方で、先行きの不安定な状況により、増産に向けての投資は好調な企業に限られ、多くの企業は慎重な姿勢を取っている。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、ドラッグストアが引き続き好調なのに加え、家電大型専門店が伸びたものの、百貨店・スーパーや新車販売は不調が続く。また、当月は、豪雨による物流への被害や猛暑による客足の低下により、一部小売で減収を示すヒアリングが聞かれた。

【観光】前年同月比で宿泊客数は上回ったが、観光客数は下回った

○観光は、宿泊客数は前年同月を上回ったが、1ヶ月を通して降雨量が多く天候に恵まれず、天候の影響を受けやすい観光地における観光客数は前年同月を下回った。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、金融機関貸出残高は引き続き増加傾向にあり、業績好調な企業にとっては資金繰りに問題なく、借入環境にも変化は見られない。一方で、小規模企業では収益圧迫等を背景に、資金繰りは依然として厳しい状況にある。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足感の拡大が継続している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が更なる高まりを見せ、売り手市場による大手志向の求職者も増加しており、求人と求職のミスマッチが見られ、県内中小企業にとっては、人材確保の厳しさから人手不足が慢性化している。